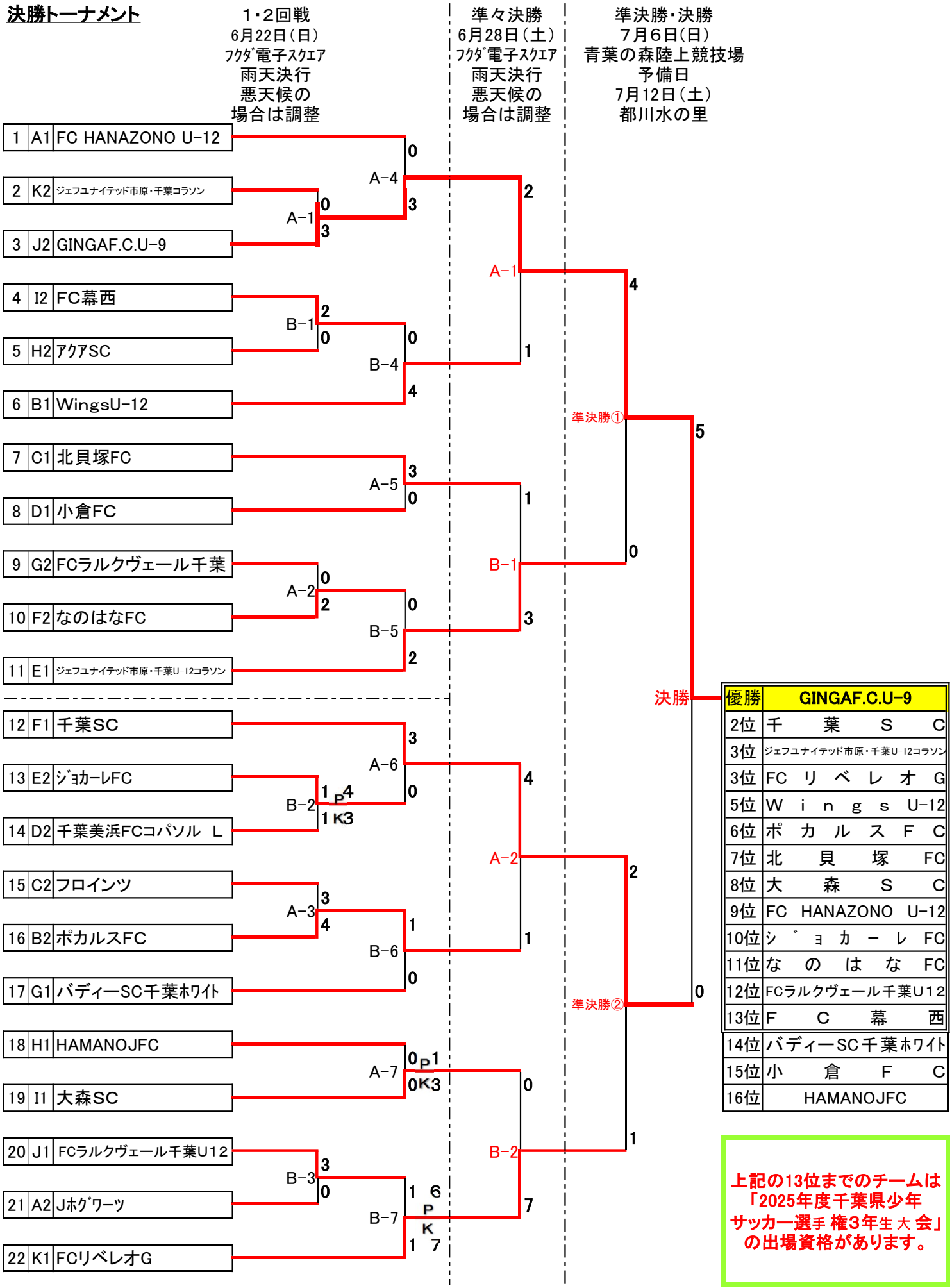
決勝トーナメント



優勝	GINGAF.C.U-9
2位	千葉SC
3位	ジェフユナイテッド市原・千葉U-12コラソン
3位	FCリベレオG
5位	Wings U-12
6位	ポカルスFC
7位	北貝塚FC
8位	大森SC
9位	FC HANAZONO U-12
10位	ジョカーレFC
11位	なのはなFC
12位	FCラルクヴェール千葉U12
13位	FC幕西
14位	バディーSC千葉ホワイト
15位	小倉FC
16位	HAMANOJFC

上記の13位までのチームは「2025年度千葉県少年サッカー選手権大会3年生の部」の出場資格があります。

2025年度　千葉市U-9サッカー大会
決勝戦評

日時：2025年7月6日　　試合会場：青葉の森陸上競技場
気象状況：晴れ　　ＷＢＧＴ：27.5℃（気温32℃.湿度62%）
ピッチ状況：天然芝　　キックオフ：10時05分

対戦チーム　　GINGA F.C. U-9　―　千葉SC
試合結果

5	2	前半	0	0	
	3	後半	0		

選評

2025年度U-9決勝は、GINGA F.C. U-9（以下「GINGA」）と千葉SCとの戦いになった。基本的なフォーメーションは、両チームともに準決勝と同じでGINGAが3-3-1、千葉SCが2-4-1で千葉SCのキックオフで試合が始まった。

試合開始早々から中盤での激しいボールの奪い合いからGINGA9番が中央でボールを保持し右サイドを駆け上がった28番へパス。28番は縦に突破を仕掛けクロスをあげようとするもゴールラインを割ってしまう。千葉SCは、GKとセンターバック、中盤の3人が動きながらビルドアップを試みようとするのに対し、GINGAは9番が前線から規制をかけ、他の選手がスライドをしながらボールを奪おうとする。

前半1分には左サイドでGINGA33番がボールを奪い14番の突破からペナルティエリア内に侵入するも千葉SCもボール保持者にアプローチしGKを中心にゴールを守る。その後もGINGAは30番、9番を中心にゴールに迫ろうとするが、千葉SCはファーストDFがボール保持者に素早くアプローチし、セカンドDFがカバーリングをすることで自由にボールを保持させない。両チームとも球際が厳しく、開始早々から激しい試合展開を繰り広げる見応えのある展開となった。

前半4分にも千葉SCはゴールキックからビルドアップを試みるが、9番の前線からの守備に対し14番がスライドしてボールを奪い、ゴール前に迫りコーナーキックを獲得する。しかし、このコーナーキックも千葉SCは堅い守りからゴールを割らせない。逆に、千葉SCは奪ったボールを右サイドに広がった7番にパスを出す。千葉SC7番は相手DFの動きを観ながらファーストコントロールでボールを動かし、右サイドから突破を試みる。サッカーは、①観る、②状況判断、③実行という動作の連続であるが、このプレーは観るという点、判断の点、動きながらのコントロールの実行の部分でも質の高い動きだと感じた。一方のGINGAもこのプレーに対して14番がアプローチをかけて動きを規制し、13番は千葉SC7番のドリブルが少し大きくなったところでカバーリングをして突破を許さなかった。反対サイドの千葉SCの選手に対しては32番がケアしており、GINGAも守備の面で観て判断し実行すると

いう部分で質の高いプレーをみせてくれた。

前半 5 分 GINGA は GK からのパントキックのこぼれ球に 30 番が素早く反応し、右サイドの 28 番を観てパスを供給する。28 番は背後を狙おうとした上で動き直しをしてボールを広がって受け、ドリブル突破からクロスをあげる。このボールに対して 33 番がゴール前に侵入して決定機を作るもゴールとはならない。28 番のこのプレーも攻撃の優先順位を意識したサポートであり、ボール保持者の状況と相手選手のポジションを観て動き直しの判断をしており、素晴らしいプレーだと感じた。千葉 SC の選手も 33 番の選手にアプローチをしており、簡単にシュートを打たせなかった。

千葉 SC は、前半 6 分には自陣エリアから 7 番がボールを保持し縦への突破を試みるが、ここは GINGA14 番がスライディングで突破を許さない。前半 8 分にはボールを奪うと素早く左サイドを走る 11 番にパスを出し、11 番が突破を試みるが GINGA の選手の切り替えも早くペナルティエリア内に進入するまでには至らない。

GINGA は、前半 9 分に 33 番が左サイドを突破しコーナーキックを獲得する。ここで得られたコーナーキックを 28 番が蹴り 32 番が一瞬マークを外してゴールに流し込み GINGA が待望の先制点を奪う。

千葉 SC もゴールを奪い返そうと攻撃を試みるが、GINGA のボール保持者に対するアプローチが早く思うようにボールを保持出来ない。逆に GINGA は 28 番の突破から 33 番がゴール前でシュートを打ち、ブロックされたボールを今度は 30 番がシュートを打つ等、攻撃を緩めない。そしてここで得られたコーナーキックを今度は 9 番がヘディングで押し込み 2 点目を奪う。千葉 SC もゴール前で GINGA の 1 次攻撃、2 次攻撃を GK 中心に守っていたが、悔しい失点となる。

その後も互いに激しい攻防が続くがお互いにゴールを割らせずに前半が終了した。

GINGA はトップの 9 番と中央の 30 番が中央突破を仕掛ける一方で中央に守備が集まると 33 番、28 番の両サイドによるサイド攻撃も行うことで質高くゴールに迫っていた。一方で千葉 SC も互いの距離間が遠くならないようにしながら互いにチャレンジ&カバーを繰り返し、特にゴール前の攻防では絶対にゴールを奪われないという粘り強いディフェンスが見られた。

後半も基本的なフォーメーションは GINGA が 3-3-1、千葉 SC が 2-4-1 でスタートした。

GINGA はキックオフと同時にゴール前にボールを蹴り入れると 33 番が中央からシュートを打ち、コーナキックを獲得する。このコーナーキックをファーサイドに走り込んだ 30 番が押し込み、3 点目を奪う。対する千葉 SC も中央の 7 番から右サイドの 10 番の前方のスペースにパスを出し反撃を試みるもゴールキーパーにクリアされる。その後も千葉 SC は諦めずに前線から積極的にボールを奪いにいく。対する GINGA も千葉 SC の素早いアプローチにボールを失いかける場面もあるものの攻守の切り替えが早く、後半 4 分には千葉 SC に奪われそうになったボールを即座に 14 番が奪い返し 33 番にパスを出して逆にコーナーキック

を獲得する。コーナーキックではGINGA32番が押し込もうとするが千葉SCはGKを中心に守り切る。GINGA32番はシュートを打ち相手ボールになった瞬間に自陣のバックラインまで全力で戻り攻守の切り替えに対する意識の高さを感じさせた。

後半5分には千葉SC7番がボールを持ちドリブルを仕掛けようとする。千葉SCはこの試合7番を中心にゴールに迫る光景が多く見られたが、1人の選手に任せるのではなく、この場面でも右サイドの10番が前線に駆け上がる等、暑さが厳しい中でもチームでゴールに向かう強い姿勢が見られた。

後半6分にはGINGA14番が左サイドでボールを保持すると相手選手のアプローチに対して33番がしっかりと角度を作りサポートをしながらゴールを目指す場面が見られた。ボール保持者の状況に応じたサポートが出来ていた。

後半7分にはコーナーキックからGINGAがゴールを目指す。千葉SCも声を掛け合いクリアして再びコーナーキックとなる。2度目のコーナーキックでも守備陣がブロックをしてクリアをするも最後はGINGAが4点目のゴールを奪う。千葉SCはこの試合でコーナーキックから複数失点をしてしまったものの、各選手が声を掛け合いながらゴールを守ろうという姿勢が見られ、この試合の中でも選手が成長していると感じさせた。

GINGAは後半11分には14番と30番が左サイドでワンツーからのコンビネーションでゴール前に迫る。シンプルなワンツーからの崩しではあったが、相手の矢印を自身に向けさせ引きつけてから味方にパスを出すことで相手選手に奪われずに左サイドからゴール前に侵入した。30番はそのままペナルティエリア内に侵入しシュートを打つも千葉SCが体を張って守る。しかし、このクリアを再びGINGA30番が回収しGKの動きを観てシュートを決め5点目のゴールを奪った。この場面でも千葉SCはゴール前の守備で体を張ってブロックをしており、素晴らしいプレーだった。その後も千葉SCは声を掛け合い諦めずに最後までゴールを目指す。後半14分には6番と11番がワンツーで左サイドを突破しようとするもゴールには至らず、GINGAが最後まで集中を切らさずに5対0での優勝となった。

両チームともに攻撃においてはゴールへの意識が高く、サッカーの本質である「ゴールを目指す」姿勢が強く見られた。また、攻撃の優先順位である背後へ抜け出す攻撃も含め、サッカーの本質を追求するプレーが見られた点は良かった。

守備については、ファーストDFが素早くアプローチにいき、簡単に抜かれずに体を入れながらボールを奪い切るといったプレーが多く見られ、セカンドDFも自身のマークのみならずカバーリングを意識したポジショニングが取れていた。また、ゴール前の攻防では1次攻撃、2次攻撃に対して集中を切らさず、体を張って守り切る等、ゴールを割らせないという気持ちが強く感じられるプレーが多く観られた。「ゴールを守る」「ボールを奪う」という守備の目的を意識したプレーが実行されていた。

攻守の切り替えの部分では、両チームともに、攻撃から守備、守備から攻撃の切り替えが早く、相手に自由にプレーをさせない質の高いプレーが1試合を通して見られた。特に攻撃

から守備の切り替えが非常に早く、ボールを失った瞬間から素早くボールを奪い返そうとする姿勢が見られた。

暑さが厳しい状況ではあったが、両チームともに素晴らしいプレーを見せてくれたと感じた。U12 年代は育成年代であり、皆に大きな可能性があるものと考えている。この決勝の舞台を経験出来た選手、試合時間が限られた選手、怪我で出れなかった選手を含め、全ての選手がまずはサッカーをより一層楽しみ、そして一層精進することで千葉市大会 U10 でより一層の素晴らしいプレーを見せてくれることを期待する。

緑区サッカー協会４種委員会技術部　金井拓也